

## まえがき

国土交通省（旧建設省）においては、1995年兵庫県南部地震により所管施設に甚大な被害が生じたことを踏まえ、耐震設計基準類の妥当性について検討を行い、必要と判断されたものについては耐震設計基準類の改訂等を進めてきた。さらに「構造物の耐震安全性向上に関する技術検討会」を設置し、耐震安全性向上に関する技術的課題を整理し、今後の調査研究の方向と目標について、専門家の検討を仰いだ。

また、平成10年度に策定された新道路技術五箇年計画では、地域性を考慮した地震動の評価及び次世代耐震設計技術が重点技術研究開発項目に位置づけられた。これは、地震動の評価を基礎とする耐震設計技術の一層の向上が求められていることに呼応するものである。

レベル2地震動に関しては精力的な研究が進められているが、依然として、一般土木構造物の耐震設計等において構造物の建設地点に影響を及ぼす震源断層を特定し、震源過程を想定した上で推定される地震動に基づいて設計地震動を設定する事例は限定的である。これは、地震の震源自体の特性及び震源パラメータの評価が定まっていないこと、種々の解析手法が提案されているものの設計実務への適用性が明らかにされていないこと、また、算定結果の妥当性を評価するための方法が確立されていないこと等によるものであると考えられる。

以上のような状況を踏まえ、一般土木構造物の耐震設計実務に反映することを前提とした上で、レベル2地震動の合理的な設定手法及び確率論的な地震ハザードマップの作成法に関する技術的な検討を行うことを目的として、地震学、地質学、地震工学等の分野の専門家からなる「レベル2地震動の設定手法に関する技術検討会」を平成10年度に建設省土木研究所（当時）に設置した。その後、平成13年度には国土交通省国土技術政策総合研究所に移設し、平成14年3月まで8回にわたり審議を重ねてきた。

本報告は、8回にわたる本検討会での審議をふまえ、地震ハザードマップの作成手法に関する研究を取りまとめたものである。本検討会の座長をお引き受けいただいた大町達夫東京工業大学教授をはじめ委員の方々には、ご多忙中にも関わらず本検討会にご参加いただき、貴重なご意見、ご助言等を賜った。ここに本検討会の委員名簿を記すとともに、深甚なる感謝の意を表するものである。

### 「レベル2地震動の設定手法に関する技術検討会」委員名簿

座長	大町 達夫	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
	岩崎 敏男	(財)建設技術研究所理事長
	釜江 克宏	京都大学原子炉実験所助教授
	川島 一彦	東京工業大学大学院理工学研究科教授
	神田 順	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
	中川 康一	大阪市立大学大学院理学研究科教授
	平石 久廣	明治大学理工学部建築学科教授
	翠川 三郎	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
	山崎 晴雄	東京都立大学大学院理学研究科教授

(敬称略、五十音順)